2017 年

ハワイコナワエナ高校と久米島高校の交流事業報告書

前村幸秀人材育成基金助成事業

目　次

Ⅰ　行程表
Ⅱ　コナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要
　１．経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　２．事前学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　３．久米島出発からホノルル研修・・・・・3-4
　４．コナ研修・・・・・・・・・・・・・・・・・4-6
　５．帰国後・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　６．おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅲ　生徒報告書
　山川聖永・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-10
　山城里紀・・・・・・・・・・・・・・・・・・11-13
　江口千花・・・・・・・・・・・・・・・・・・14-17

◇派遣期間：2017 年 8 月 6 日（日）～8 月 23 日（水）

◇派 遣 先：アメリカ合衆国ハワイ州コナ市（ハワイ島）及びホノルル市（オアフ島）

◇派 遣 生：山川　聖永（園芸科 2 年）

　　山城　里紀（普通科 1 年）

　　江口　千花（普通科 1 年）

◇引　　率：本 村　優 （久米島高校教諭）

写真①　久米島空港にて出発式

Ⅰ　行程表

日にち	日　　程	備　考
8 月 6 日（日）	久米島空港→那覇空港→関西国際空港→ホノルル空港 ホノルル空港より専用車にて観光 パールハーバー・ビジターセンター、アリゾナ記念館 パンチボウル、カメハメハ大王像他 ホノルル市内ホテルで宿泊（～8/7 月）	
7 日（月）	混載車にて移動 ポリネシア・カルチャーセンター見学	
8 日（火）	ホノルル空港→コナ空港 コナワエナ高校及び県人会の出迎えを受け、校長車で学校へ 校長室でホストシスター＆ブラザーと顔合わせ ホストファミリー宅でホームステイ（～8/19 土）	
9 日（水）	ホストシスター＆ブラザーと高校生活を送る（～8/17 木）	
10 日（木）	見学：プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園 コナコーヒー・リビング・ヒストリー農園	
12 日（土） 13 日（日）	ホストファミリーと休日を過ごす	
14 日（月）	見学：NELHA（ハワイ州立自然エネルギー研究所） UCC ハワイコナコーヒー・エステート	
15 日（火）	コナワエナ中学校（ミドルスクール）でプレゼンテーション 「久米島高校」「沖縄の食文化」「沖縄の伝統文化」について	
18 日（金）	ホストファミリーと休日を過ごす	州制記念日 Statehood Day
19 日（土）	コナワエナ高校でアメリカンフットボール観戦	
20 日（日）	コナ沖縄県人会主催の交流会 校長別宅にてホームステイ	
21 日（月） 22 日（火）	コナ空港→ホノルル空港→中部国際空港→那覇空港 那覇市内ホテルで宿泊	
23 日（水）	那覇空港→久米島空港	

Ⅱ　コナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要

引率者：久米島高校教諭　本村　優

１．経緯

2011 年 9 月に海洋深層水研究施設を持つアメリカ合衆国ハワイ州ハワイ郡コナ市と久米島町が姉妹都市提携を結び、産業や教育、文化の各分野で共同プロジェクトを展開していくこととなり、2013 年にコナワエナ高校と久米島高校の交流事業が始まった。本交流事業は今年で 5 年目を迎えており、久米島高校の夏季休業期間に生徒 3 名（園芸科 1 名、普通科 2 名）をコナワエナ高校に派遣し、英語力の習得・向上と異文化交流・経験等を通して久米島町の持続的発展に寄与できる豊かな国際人を育成すること及び久米島高校の魅力化を図ることを目的としている。

今年度は、8 月 6 日（日）～23 日（水）の 18 日間の日程（ホノルル研修 2 日間、コナ研修 14 日間）で実施し、園芸科：山川聖永（2 年）、普通科：山城里紀、江口千花（ともに 1 年）が派遣された。派遣費用は久米島町の「前村幸秀人材育成基金」より 9 割の助成を受けている。

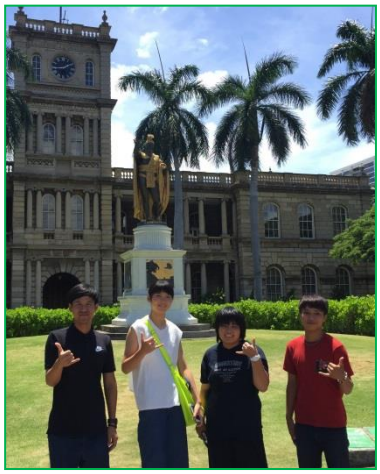
２．事前学習

事前学習として、英語力習得のため久米島高校 ALT レイチェル先生による英会話講習を行ったほか、姉妹都市提携を結ぶきっかけとなった海洋深層水とその関連施設について学ぶため、沖縄県海洋深層水研究所を見学した。また、沖縄の食文化や伝統文化、久米島高校について紹介するためのプレゼンテーション資料作成や米国渡航に必要な ESTA 申請を英語科担当教諭や久米島町職員：山城ゆいさんの指導のもと完了することができた。

３．久米島出発からホノルル研修

8 月 6 日（日）―久米島空港での出発式は、早朝にも関わらず吉野剛教育長はじめ久米島高校教職員や保護者、昨年度の本研修に参加した生徒など多くの関係者が立ち会ってくださった。温かく見送られ那覇空港から関西国際空港を乗り継ぎホノルル空港まで約 17 時間の長旅、国際線の機内では映画鑑賞や読書、睡眠など思い思いの時間を過ごした。

6 日の朝に久米島を出発したにも関わらず、ホノルル到着も 6 日の朝。猛烈な時差ボケを体感しながら専用車（なんと豪華リムジン）で市内観光へ。パールハーバーでは疎開船「対馬丸」を撃沈させた潜水艦「ミズーリ」や日本軍の奇襲攻撃によって沈没した戦艦「アリゾナ」の真上に建設されたアリゾナ記念館を見学し、太平洋戦争の引き金となった真珠湾攻撃とその悲惨さについて学ぶことができた。意外だったのがパールハーバーを訪れるのはハワイ州外からのアメリカ人が多く、日本人の来訪は少数であるということだった。市内レストランでアメリカンなランチ（チーズバーガーとフレンチフライ）、パンチボウルを車窓から眺め、州議会棟やカメハメハ大王像の見学、ダイヤモンドヘッド周辺のドライブ、ホテルにチェックイン、ホノルル在住で久米島と所縁の深い Mark Higa さんとディナーをご一緒するなど充実の日となった。



写真②　カメハメハ大王像

ホノルル 2 日目は朝食でボリューム満点のパンケーキを食べ、午後から混載車でポリネシア・カルチャーセンターへ向かった。車中、ガイドさんのたたみ掛けるような観光案内にうたた寝する隙もなく 1 時間余りの移動が足早に過ぎ去った。ポリネシア・カルチャーセンターは太平洋に浮かぶハワイ、フィジー、タヒチ、サモア、トンガ、アオテアロア（ニュージーランド）、5,000 年の歴史を再現したテーマパークであり、大学生ガイド：Fale さんの案内でカヌーページェントやカヌーツアー、地域ごとに特色のあるパフォーマンス、フラのレッスンを体験することができた。イブニングショーの「HA：ブレス・オブ・ライフ」は圧巻のひと言で、ファイヤナイフやフラ、タヒチアンなどポリネシアのダンスと音楽に大いに魅了された。ポリネシアの島々の文化や生活様式の違い、ポリネシアの人々の持つ力強い精神を肌で感じることができた 1 日であった。

４．コナ研修

（１）コナワエナ高校での生活

8 月 8 日（火）―各自で朝食を済ませ、送迎の専用車（これまたリムジン）でホノルル空港へ。まだ慣れない手つきで搭乗手続きと荷物を預けハワイ島コナ空港へ出発。約 50 分のフライトはあっという間で、機内から見下ろすハワイ島の印象は「広大な土地に岩と草だらけ」の島だった。飛行機のタラップを降り、ヤシの木に囲まれた空港のゲートを抜けるとコナワエナ高校の Shawn Suzuki 校長とコナ沖縄県人会の Kurashige 夫妻が歓迎のレイを持って出迎えてくださった。Kurashige 夫妻は事前学習で訪問した海洋深層水研究所で一度お目にかかっており、生徒も安堵の表情を浮かべていた。ハワイ島到着の写真撮影を終えると、期待と緊張が交錯するなか Shawn 校長の自家用車でコナワエナ学校へ。（ランチは Denny's のハンバーガーとフレンチフライ）

写真③　Cafeteria にてランチの様子

コナワエナ高校はハワイ島西部のコナ地区に位置する 1921 年設立の公立高校である。9 年生から 12 年生（アメリカの高校は 4 学年制）まで約 800 名の生徒が在籍しており、ネイティブハワイアン、日系、メキシコ系、ポリネシア系の生徒や諸外国から移住してきた生徒も多い。野球やアメリカンフットボールはもちろんスポーツが盛んで、女子バスケットボール部や男子レスリング部は州大会や郡大会を何度も制覇した強豪チームである。

ハワイ島滞在中、派遣生はホストファミリー宅でホームステイをしながらコナワエナ高校での学校生活とハワイでの日常生活を体験した。今回のホストファミリーは、Taggart Nakamoto くん〈聖永〉、Ka'i Kunitomo さん〈里紀〉、Kyndra Nakamoto さん〈千花〉と全員が日系人であった。どの家族も温かく迎え入れてくださり、派遣生も馴染むのにそう時間はかからなかった。

コナワエナ高校の朝は早い。8 時半には授業が開始するため、生徒、教師、学校全体が朝から賑やかな雰囲気であった。アメリカの高校の殆どがそうであるように、HR というシステムがなく登校すると選択した授業の教室へ入る。いくつか必修科目もあるが、各生徒の意思に沿って自由に科目と教師を選択することができるのだ。派遣生はホストシスター＆ブラザーが選択する授業を受けたが、毎時間クラスの顔ぶれが変わる状況や 80 分という授業時間、英語での授業に戸惑

いと新鮮味を感じている様子であった。

授業スタイルだけでなく、服装や頭髪の自由、Cafeteria で食べるランチや高校生が車を運転して通学する光景など久米島高校とは対照的な学校生活を通して、派遣生それぞれが思いを巡らせたことであろう。個人的には外履きのまま体育館フロアで授業することに衝撃を受けた。

8 月 15 日（火）―高校に隣接するコナワエナ中学校（ミドルスクール）を訪問。生花のレイで歓迎してもらい、TV 局さながらの校内放送で全校生徒に自己紹介、日本出身の成田先生クラスで朝の会と忙しなく時間が過ぎ、1～4 校時の授業で事前に準備していたプレゼン発表をすることになった。「久米島高校について〈聖永〉」、「沖縄の食文化について〈千花〉」、「沖縄の伝統文化について〈里紀〉」、三者三様ぎこちなくも緊張感の伝わる発表に中学生も真剣に聞き入っていた。また、「Do you have any question?」の問いかけに多くの手が挙がる光景は、異国の文化や生活、外国から来た同世代の趣味や考え方に大きく関心を寄せていることが見て取れた。プレゼン終了後に久米島から持参していたパーランクーでのエイサー演舞やけん玉の披露、書道の実演と指導までさせていただくことができ、中学生との距離をグッと近づける良い機会となった。

（２）コナ地区地域見学

8 月 10 日（木）―里紀さんのホストファミリーである Kunitomo さんのご厚意でコナ地区の名所を見学することができた。「逃れの場」「聖域」という意味を持つプウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園ではハワイの歴史と自然を学び、1925 年に日本からハワイ島へ移住した内田夫妻が経営していたコナコーヒー・リビング・ヒストリー農園（内田ファーム）では、当時のハワイ移住者の暮らしぶりや昔ながらのコーヒーの作り方について知ることができた。

8 月 14 日（月）―朝 9 時に学校を出発し専用車（バス）で NELHA（ハワイ州立自然エネルギー研究所）へ。すべて英語での説明であったが、久米島の海洋深層水研究所で事前学習していたこともあり、要点をとらえ内容を理解している様子であった。広大な敷地にアワビやロブスター、タコ等の養殖において海洋深層水を利用している。今回特別にタコ養殖場を見学させてもらい、生徒たちは実際に養殖されているタコに触れることもできた。海辺でランチ（サンドウィッチとポテトチップ）、McDonald's で食後のソフトクリームを食べ、午後から UCC ハワイコナコーヒー・エステートを訪問。コナ地区の土壌や雨量、気温、日照時間、標高がコーヒーの産地として非常に理想的であることを知り、生徒たちも（引率者も）無料で飲める世界最高のコーヒーを好きなだけおかわりしていた。まさに贅沢の極みである。

写真④　プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園　　写真⑤　NELHA（ハワイ州立自然エネルギー研究所）

（３）コナ沖縄県人会主催の交流

8 月 21 日（日）―午前 11 時よりカイルアレクリエーションセンターにてコナ沖縄県人会との交流会が催された。沖縄県出身者やその家族、派遣生とホストファミリーを含め総勢 50 名以上の参加者が集い、それぞれの家庭で持ち寄った料理（サラダ、パスタ、おにぎり、寿司、天ぷら、ラフテー、ラザニア、煮しめ、ケーキ、マンゴーなど）と手作りのサーターアンダギーがズラリと並べられた。交流会を企画してくださった Cheryl Kurashige さんの挨拶で会がスタートし、派遣生 3 名とホストファミリーの紹介、食事タイム、Geta Race（日本でいうムカデ競争）、Water balloon Game（水風船ゲーム）、BON DANCE（盆踊りのようなもの）で親交を深めることができた。会場で流れる BGM が沖縄民謡や涙そうそう、BEGIN の曲を使用しており、何気ない部分ではあるがハワイにいながらも沖縄の風を感じながら楽しい時間を過ごすことができた。

生徒たちは帰国を翌日の早朝に控えており、この日は Shawn Suzuki 校長別宅での宿泊となるため 2 週間お世話になったホストファミリーのみなさんとはここでお別れとなった。不安と緊張でいっぱいだった生徒たちを温かく迎え入れ、ハワイ島ならではの体験や観光など多くの機会を与え、本当の家族のように包んでくれたみなさんとの別れをいつまでも惜しんでいたのは、感謝の気持ちの大きさの表れであった。

写真⑥　ホストブラザー＆シスターとの集合写真

写真⑦　おもてなしの心溢れる Shawn Suzuki 校長

５．帰国後

9 月 11 日（火）―派遣生の 3 名は久米島高校オープンスクールで島内外の中学 3 年生を対象にハワイ交流事業についての紹介をおこなった。研修中に経験したことや学んだことを各々の言葉で伝えるだけでなく、久米島高校の大きな魅力の一つである本事業について中学生へ積極的な参加を呼びかけていた。また、大田治雄町長との面会に始まり海洋深層水施設での事前学習、日本からハワイへ飛び立ちホノルル研修、コナ研修を終えるまでの活動の様子を撮りためておいたスライドショーを上映した。その映像を見つめる中学生たちの真剣なまなざしが次年度の本事業の成功と活性化に繋がることを期待する。

今年度は、10 月下旬にコナワエナ高校からの交流生を受け入れることになっており、派遣生は

ホストシスター＆ブラザーとして準備を進めている。久しぶりの再会を心待ちにしているようで、彼らもきっと「おもてなし」の心を持って温かく迎え入れてくれるであろう。

Ⅳ　おわりに

2013 年度に久米島高校とコナワエナ高校とを繋ぐ架け橋としてスタートした本交流事業もいよいよ 5 年目を迎え、久米島町と久米島高校を発展させるにあたり中核となる事業に成長しているのだと感じる。過去には、英語科教師や久米島町職員が担当していた役目を昨年度に引き続き、保健体育科教師（しかも今年の 4 月に赴任してきたばかりの若輩）が担うということに、派遣生や保護者には説明会や準備段階から大変な心配をかけたことだろう。私もオファーを受けたからには派遣生にとって実り多い研修となるようプライドを持って本事業に臨んだ。

私の事前学習は昨年度の引率教諭である嶺井先生から情報収集をすることと iPhone に Google 翻訳アプリをインストールすることだった。18 日間の旅程を終え、派遣生 3 名を無事に久米島へ連れて帰れたことに今はホッとしているが、やはり私自身の英語力の低さを随所で痛感させられたことは大きな反省材料であった。ホノルルで帯同してくださった日本人ガイドのエツコさん、コナでお世話になった日本語が達者な Shawn Suzuki 校長のサポートがなければ引率教諭としての責務が果たせたのかすら危うい状況であったことは簡単に察しがつく。

コナワエナ高校で過ごした日々は、教師としての私の教育観を大きく揺るがす経験になった。ホームステイの間、派遣生はホストシスター＆ブラザーと行動を共にするため、引率は校長室で研修日程の調整をしたり、報告書を作成したり、コーヒーを飲んだり、今晩のディナーの打ち合わせをしたりといった業務が多かったが、Shawn 校長や Diane 教頭から受けた学校説明や施設案内、授業見学を通して、日本とアメリカの教育システムの違い（公立校と私立校で大きく異なるようだが）について深く考えさせられた。

コナワエナ高校は約 800 名の生徒数に対し、教員の数はたったの 40 名であるが、事務職員やセキュリティ、部活動コーチ等を含めるとスタッフは 100 名を超えること。学校指定の制服もなければ体育着もなく、体育の授業は私服でサンダル履きの生徒もいたこと。学級担任や校務分掌などの組織もなく教師側は担当の授業と自身の研究に専念している印象を受けたこと。私たちが頭を悩ませ、力を入れているはずの生徒指導がほぼ皆無であること。部活動は FALL／WINTER／SPRING の 3 シーズン制でスポーツの好きな生徒は多くの競技を経験できること。すべてが新鮮で衝撃的で、私の辞書にある教育の在り方というものを根本から覆された。それと同時に、ここには今の日本が抱える学校現場における問題のほとんどをクリアにしてくれるヒントがちりばめられている、そんな気がしてならなかった。

私は宮古島の出身であるが、久米島高校の教師である限り、今回の貴重な経験を確かな財産として久米島町に還元していくつもりだ。派遣生の聖永、里紀、千花も将来を久米島で過ごすのかは不確かであると話していたが、久米島町そして久米島高校の発展のために何か力になりたいと思う気持ちに偽りはないはずである。久米島高校を代表して派遣されたという自覚と誇りを決して忘れることなく今後の学校生活や進路活動に邁進することを願う。

最後に、本交流事業の実施にあたり尽力してくださった大田治雄久米島町長、吉野剛教育長、久米島町職員や前村幸秀人材育成基金の関係者の皆さまをはじめ、コナワエナ高校関係者、コナ

沖縄県人会、ホストファミリー、携わってくださったすべての方々に心から謝意を表し、次年度への取り組みに向けて私なりに力添えをしていく所存である。

ハワイコナワエナ高校と久米島高校との国際交流事業に参加して

久米島高等学校　園芸科 2 年
山川　聖永

私がこの交換留学に参加を希望した理由は、外国に行き現地の人達と英語で会話がしたいという“夢”があったからです。また、英語力を磨くことで、沖縄を訪れる観光客とスムーズに会話をしたいという思いがありました。久米島高校のハワイ交流事業を知り、私はこのチャンスをぜひ手にしたいと思いました。

参加希望理由を提出したあとには英語科担当の先生・教頭先生との英語での面接があると聞いたので、私は基礎から勉強し直しました。学校から帰宅したあとには辞書や携帯を使い日常会話で使う単語や面接に必要な単語を調べました。いよいよ面接当日、緊張しながらも先生達からの英語の質問に答えることができました。若干知らない単語の入った質問があり、戸惑いました。まだまだ会話の実践練習が必要だったと感じました。

そして派遣生徒発表の日、ドキドキしながら先生のもとへ行きました。みごと派遣生に選ばれることができました。とても嬉しく、勉強をした甲斐があったと思いました。その後も、気をゆるめることなく毎日勉強に励みました。普通科からも 2 人の派遣生がきまり、ALT の先生と自己紹介の練習などをしました。ハワイ出発前の事前学習として、海洋深層水の施設見学に行きました。海洋深層水がどうのように活用されているのかを具体的に学ぶ機会となりました。深層水を活用した冷房システムや温度差発電などの仕組みを実際に見て学ぶことができました。ハワイでも同様に海洋深層水を活用しているということで、現地で実際に目にすることでより知識を深めたいと思いを強くしました。

そして迎えたハワイ出発日、初めての海外で不安と楽しみの半々でした。8 時間のフライトでホノルルに到着しました。ハワイに着いて、初めの 3 日間はホノルル･オアフ島での観光でした。まず最初にパールハーバーにいき見学をしてきました。そこには戦艦アリゾナが今でもあり、その戦艦からまだオイルが出てきていました。未だに船も残っていてとても驚きました。戦争当時は敵同士だったアメリカと日本ですが、二度と同じような過ちを繰り返さないために、このような施設を利用することで、お互いに歴史を正確に知る必要があると感じました。ホノルルを移動してる時も、多くの観光客を目にしました。沖縄とはまた違った賑やかな雰囲気がとても印象に残っています。

そして、ホノルルでの 3 日間が終わり、コナ出発の日、いよいよホームステイの始まりです。コナ空港に着くと、コナワエナ高校の校長先生と沖縄県人会の方達がお迎えに来てくれました。

先生を含め、私たち 4 人の首にレイをかけてくれました。

写真 1：出迎えてくれた校長先生と県人会の方

コナワエナ高校に到着し、交流生との顔合わせをしました。私の交流生はナカモトファミリーでした。8 人家族で、とてもアウトドアが好きな家庭でした。休日は外に出かけ、ショッピングやピクニックをし、とても充実した休日でした。毎週木曜日は教会に行き、それから、バスケットボールなどをしに行きました。平日は、私の交流生について行き、授業を受けました。日本の学校とは違いクラスというものがなく、自分が選択している教科の教室に行き、70 分の授業を受けるという形でした。私の交流生が選択していた授業は、家庭科・歴史・日本語・英語の 4 教科でした。すべて英語での授業なので、慣れるのに時間がかかりましたが、日が経つにつれて慣れていきました。自分が学びたい授業を選択して受けているので、コナワエナ高校の生徒はとても授業に積極的に取り組んでいました。

写真 2：カフェテリア

周りの生徒たちも私たちにとても温かく接してくれました。すぐに友達ができ学校内ではずっと一緒に行動をしました。ランチも一人の時は周りの友達が声をかけてくれてとてもうれしかったです。その時、沖縄の助け合い精神と似ているなと思いました。ホストファミリーや学校の先生、友達皆がとても温かく、ホームステイをするにあたってとても安心しました。

ある日曜日にホストファザーに教会へ誘われました。その日は、日本で仕事をしていた経験や留学経験がある方々の報告会が行われていました。教会では、男性はスーツ、女性はスカートといった服装で、自分も日本から持ってきた制服に着替えました。なぜきちんとした服装を身につける必要があるのかと聞くと、昔からの伝統だと言っていました。日本で言うと結婚式みたいな感じです。その日は朝から夜までずっと教会で一日を過ごしました。

ホストファミリーとの最終日は、コナワエナ高校のアメフト観戦をしました。初めて間近で見るアメフトで、とても迫力があり、見ていて興奮するスポーツでした。結果はコナワエナ高校が負けてしまいましたが、とてもいい経験でした。ディナーはいつもより豪華で、楽しくホストファミリーと夕ご飯をいただきました。

次の日は沖縄県人会との交流でした。沖縄県人会ではたくさんの沖縄日系人がいて、各家庭か

ら持ち寄った食事をみんなでシェアしランチをしました。会場ではビンゴ大会や、レクレーションが行われ、また現地の方がフラダンスやタヒチアンダンスを披露してくれました。

このプログラムに参加できてとても良かったです。ハワイに来る前に、自分から積極的にコミュニケーションを取ろうという目標を立てていました。その目標は達成できたと思っています。積極的にコミュニケーションをとったので、すぐに生活に慣れることができました。

写真 3：コナワエナ高校の校舎

今回の派遣期間中に得たことは、コミュニケーションをとるにあたっての積極性です。課題としては、日本の伝統文化に対する自分の知識が薄かったため、ちゃんと伝える事が出来なかったことでした。日本の文化について知識を高める必要があると思いました。そのために、地域行事に積極的に参加したり、行事の目的を意識的に調べてみることから始めていきたいと思います。

これから、このプログラムで学んだことを発表する場を多く持ち、多くの生徒にこのプログラムに対する興味を持ってもらい、久米島とコナワエナの交流の活性化に貢献し、前村基金に恩返ししていきたいと考えています。

写真 4：ホストファミリーとビーチにて

写真 5：学生との交流会

ハワイコナワエナ高校派遣プログラムに参加して

久米島高等学校普通科１年
山城　里紀

★参加した目的★

私が今回ハワイコナワエナ高校派遣プログラムに参加した目的は、中学生の頃からこの派遣プログラムに興味があり、実際に参加してハワイの人たちに久米島・沖縄の伝統文化を伝え、さらにハワイの伝統文化も学んで帰ってきて久米島の人たちにも伝えたかったからです。また、ハワイの食文化にも興味がありました。

★温かく迎え入れる心★

私がこの派遣プログラムに参加して学んだことは、「温かく迎え入れる心」です。初日ホノルルに着いた時、ガイドさんや運転手さんが笑顔で迎えてくれました。コナに着いた時も、クラシゲ夫妻、コナワエナ高校の校長先生が優しく迎え入れてくれました。私はホームステイ先に行く時も不安でしたが、ホストファミリーが温かい笑顔で、初めて会ったのに家族のように当たり前に迎え入れてくれたのでほっとしました。

★驚いたこと★

驚いたことはたくさんあります。一つ目は、野生のニワトリがいたことです。始めは何かと思いましたが、よく見てみるとニワトリで、また、ヒロというところに向かうときは野生のヤギもいました。久米島のヤギとは違い黒っぽい色をしていました。

二つ目は、お店で出てくる食事の量が多いことです。ピザも、一枚一枚が大きくすぐに満腹になりました。そのせいか、基本的にほとんどのお店で持ち帰りができるようになっていました。

三つ目は、体育館に土足で入ることです。久米島高校では体育館シューズに履き替えますが、コナワエナ高校ではそのまま体育館に入ります。土日に見学したバレーボールの観戦も土足のままで体育館に入ったので、少し不思議な感じがしました。

写真１：夕食のピザ

写真２：大きいかき氷

★後悔していること★

私が後悔していることは、ビーチに行けなかったことです。ホストファミリーは、「行こうよ！」と誘ってくれたのですが、私が足を怪我していて海に入れなかったので結局ビーチには行けませんでした。ビーチは綺麗だと聞いていたのでとても残念でした。

あと一つは、火山を見に行けなかったことです。ハワイは火山でできた島だと知っていたのでぜひ見に行きたかったです。

★スクールライフ★

実際にコナワエナ高校に通ってみて、久米島高校と違う点がいくつかありました。
久米島高校は選択授業が少なく毎日の時間割が決まっているのに対し、コナワエナ高校は大学のように選択授業が多く、教室も毎時間違いました。私の交流生は体育の授業を取っていなかったので、体育の授業はありませんでした。また、コナワエナ高校では休み時間にみんな携帯を触っていました。久米島高校では一日の授業が終わるまでは禁止なので少し驚きました。そして、ランチ時間にはみんなカフェテリアに移動して、自宅から持ってきたランチやカフェテリアで購入したランチを食べます。ランチメニューで驚いたのは、小さめでしたが生のニンジンがあったことです。みんな主食はパンでしたが、主食がチップスの時もありました。チップスにドライカレーみたいなものをつけて食べましたが少し辛かったです。

写真 3：カフェテリアでのランチ

★現地で感じたこと・学んだこと★

私が現地で学んだことはたくさんあり、その中でも印象に残っているのがパールハーバーです。パールハーバーでは、沈んだ船のところに行き、話を聞きました。その沈んだ船からは今でもオイルが流れ出ていて、それは戦争で亡くなっていった人たちの涙とされていました。ほかの展示を見て私は、思わず目を背けてしまいました。また、パールハーバーでは写真がとてもリアルでした。沖縄の平和記念資料館にある写真もリアルだけどパールハーバーのほうがより一層リアルだと感じました。そのことで、より戦争当時の状況などを正確に知ることができ、反戦への思いを強くすることができると思いました。また、実際には戦争を体験していない私たち学生が戦争のことについて知り、今後絶対戦争を起こさないという意識を持っていくことも大切だと思いました。

ポリネシアカルチャーセンターでは、日本語の話せる学生さんが案内してくれました。久米島ではあまりポリネシアカルチャーセンターのような学生が案内している施設はないけど、私たちがいま取り組んでいる街づくりプロジェクトで町をよりよくしていくという点は似ているなと思いました。ポリネシアカルチャーセンターのような大きなことには関わることはできないけど、街づくりプロジェクトのようなものには参加できるので、これから少しずつこのような取り組みにでも参加していきたいです。

★派遣プログラムを終えて★

私が派遣プログラムを終えて学んだことは、単語力が必要だという事です。私は、文法が苦手なので不安でしたが、単語を繋げて言えば通じました。分からない単語は辞書で調べてみせてコミュニケーションを取ることが出来ました。

この経験から私は、わからない単語があればすぐに辞書を引き自分の単語力を強化していくことが大切だと学びました。また、日頃から文章の中で単語を意識していくと単語力がついていくということも学びました。一時間一時間の授業を大切にし、更なる英語力の強化に繋げていきたいです。

写真 4：ホストファミリー

今回の留学プログラムでハワイの人たちに沖縄、久米島の伝統文化を伝えることができたと思います。私は、パワーポイントを使ってハーリーや、エイサーなどの沖縄、久米島の伝統文化を伝えました。パーランクーを実際に披露すると、みんな興味を持っていました。最初はちゃんと言いたいことが伝わるか不安だったけど、伝えることができてよかったです。ですが、ハワイの伝統文化はまだすべてを知ることは出来ませんでした。今後、さらに英語力を磨きもう一度ハワイに行き、伝統文化を学びハワイと久米島の懸け橋になれるような人になりたいです。このプログラムに参加させてくれた両親、資金面で援助していただいた前村基金、サポートをしてくださった久米島町の方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

ハワイコナワエナ高校と久米島高校との交流事業に参加して

久米島高等学校　普通科１年
江口　千花

私がこの交流事業に参加した理由は、ほかの国の同級生がどのような暮らしをしていて、どのような文化を持っているのか身をもって体験したいと思ったからです。また、中学校在学時にネイティブスピーカーの先生や、知人の外国人の方とお話をする中で自分の気持ちや意見をすぐに英語で伝えることができないという歯がゆい体験を何度かしました。この体験から英語の学習に力を入れましたが、久米島にいる間に外国の方とお話しする機会はそう多くはありませんでした。そんな中この取り組みの募集がありぜひ参加したいと思い応募しました。

ハワイではすべてが新しい学びであり、発見でした。沖縄と似ていることや、まったく違うところがあり、「つまらない、暇」と感じさせる時間がありませんでした。約 2 週間の間に学んだこと、体験した事はたくさんありました。ハワイに着いてからの 2 日間はオアフ島で過ごしました。そこで私たちはパールハーバーとポリネシアカルチャーセンターを訪れました。そこでの体験で感じたことが、大きく分けて 2 つあります。

1 つ目は、アメリカでは戦争への関心が高いということです。太平洋戦争の際に日本軍が攻撃し開戦のきっかけとなったパールハーバーはアメリカ人にとっての観光名所であり、ハワイに行くなら必ず行くというような特別な場所だそうです。施設内には多くの観光客が訪れており、関心の高さを伺い知ることが出来ました。施設内には映画館やアリゾナ号が沈む海に作られた施設、資料館などが設置されています。資料館には最近になって原爆の被害者である佐々木貞子さんの展示が始まっており、多くの見学者が足を止め見学していました。パールハーバーは日本が攻撃した地であり、日本の視点からしか戦争について考えたことがない私にとって、戦争を新たな視点から考えるきっかけとなりました。そして、アメリカ人の戦争に対する関心の高さから比較すると、日本人の戦争への関心は低いように思え、危機感を覚えたほうがいいのではないかと思いました。実際、沖縄に訪れる観光客の中で沖縄戦について学ぼうと、ひめゆりの塔や平和祈念資料館に訪れる人は年々減少してきているそうです。今、日本、沖縄に求められているのは戦争への関心の回復だと思いました。このように、新しい体験を通して新たな問題に気付くことができ、とてもうれしく思いました。そして、その気付きを無駄にせず、問題解決への大きな手助けとなれるように、もっと学びを深めていきたいです。

2 つ目は、自国の伝統的な文化を受け継いでいこうという姿勢が強いということです。私たちは、2 日目にポリネシアカルチャーセンターを訪れました。ポリネシアカルチャーセンターはブリガムヤング大学ハワイ校に隣接しており多くの留学生が働いています。学生は母国の観光客に

施設内の案内をしたり通訳を行います。ここは学生に仕事の場を与えることと学生への奨学金を

確保することを目的とした施設だそうです。この画期的な取り組みはたくさんの利点があります。留学生の語学力を養成することや異文化への理解を深めることなどいろんな面で成長できます。日本でもそのような取り組みを増やしていけば、文化の継承の手助けになります。久米島にも紬や組踊など守るべき文化があります。久米島では現代版組踊として高校生を中心とした活動が行われています。それらを持続するにはこのような方法を参考にするのもいい考えだと思います。また、ポリネシアカルチャーセンターでは、ポリネシアの島々の文化の違いについ学ぶことができます。ポリネシアの島々とは、主にアオテアロア、フィジー、ハワイ、サモア、タヒチ、トンガです。それぞれの伝統的な踊りや住居を見学することができます。何年も前から受け継がれてきた伝統は、スマホのゲームや、テレビの面白い番組よりずっと面白かったです。そしてこの伝統の最盛期に生きてみたかったという後悔に似たものを感じました。私は、以前からニュージーランドのマオリ族の民族舞踊である「ハカ」に興味があり、新たな民族舞踊を知ることができ、とてもうれしく思いました。どの舞踊も、力強く迫力があり、美しいものでした。なぜ文化の継承が大切なのか、少しだけではありますが理解できた気がしました。

3 日目にハワイ島へ行き約 2 週間のホームステイが始まりました。ハワイ島はハワイ諸島の中で一番大きな島で、地元の人には「BigIsland」と呼ばれています。私のホストファミリーは明るく楽しい家庭でした。週末や放課後にはスーパーや観光名所、パーティーに連れて行ってくれました。そのおかげで慣れない環境の中で存分に楽しむことができました。ホームステイをする中で気付いたこと、驚いたことがたくさんありました。

1 つ目は、私のホストファミリーが日本への興味を強く持っていることです。私がお世話になった Nakamoto familly は日系人の家族で 3 姉妹の 5 人家族でした。長女は日本の大学に通っているそうで、楽しそうにその子の住んでいる場所の紹介をしてくれました。日本語が書かれたものをもってきて、これはどういう意味なのか？と尋ねられたり、私が日本と外国の違いを探すように、日本にこれはある？と質問されることもありました。また、高校の授業として日本語の授業がありました。授業では 2011 年に日本で公開された映画「奇跡」をみて聞き取れた単語をメモしていくという内容でした。しかし、その映画は方言が入っており、これを聞き取るのは難しいのではないかなと思い少し面白かったです。ホストファミリーは日本語が全く話せませんでしたが、高校には日本語が話せる学生が何人かいました。また、日本と似ていたり、同じものがあったりもしました。例えば、ホストファミリーとビーチへ出かけた時にランチとして卵焼きとポークをごはんで包みのりで巻く沖縄料理の「ポーク卵」とよく似たものが出てきたり、お店に行くと森永製菓のハイチュウが売られていました。ちなみに、ポーク卵は「musubi」として呼ばれ親しまれていました。他にも、「bento」や「sushi」など日本食が広く知られていました。私のホームステイ先では夕飯にお米が出てきました。

2 つ目は、日本の高校とアメリカの高校の違いです。日本の高校は制服をきて、朝の SHR があるのが一般的です。しかし、コナワエナ高校は私服で登校しそのまま授業に入りました。決まっ

た自分のクラスというものが存在せず、毎時間教室を移動して授業を受けるという形でした。

髪型も服装もメイクも自由な高校だったので、やんちゃな人が多くにぎやかなのかと思っていましたが、授業に入るとみんな先生の話を聞き、手を挙げては質問や自分の意見を発表したりしていました。授業は自分の学びたい科目を選び受けるというシステムでした。自分の教科書などはなく、学校で貸し出されているものでした。1 科目は久米島高校よりも長い時間行われますが、その分 1 日に受ける授業数が少なく学校が終わる時間も早かったです。そして全ての授業が終わるのは 14 時 30 分ごろでした。放課後は部活動などのそれぞれの活動になります。私のホストファミリーの Kyndra はフラを習っており週に 2 日練習に行っていました。私は、コナワエナ高校のシステムは、自分の個性を尊重し自分の能力を最大限に伸ばすことができると思いました。また隣接する建物には、ハワイ語の学校がありました。文化を継承しようとする取り組みの一環であり、それを学びたいと思う生徒がいることがすごいなと感じました。

3 つ目は、オアフ島が自然豊かな島だということです。私たちが住む久米島も、美しい海に囲まれた自然豊かな島ですが、ハワイ島には違った自然がありました。私は週末にホストファミリーとキラウエア火山やレインボーフォールという滝を見に行ったり近くの海に釣りに行ったりしました。キラウエア火山は現在も噴火が続く活火山で、近くまで行くと真っ赤に染まったマグマを見ることができます。火山を見学できる施設にはたくさんの観光客が詰め寄せており、日本人の姿も多くありました。初めてマグマを実際に見て、地球の心臓のように見えました。その迫力と神秘的な様子にとても感動しました。レインボーフォールはすごい高さから大量の水が流れ出る迫力と共に名前の通りきれいな虹を見ることができました。海に釣りに行った時には、ウミガメをすぐそばで見ることができました。また、野生の豚や鶏が生息しており、鶏に至っては 1 日に最低でも 5 匹ほどは見ることができるほどたくさんいました。

これらの経験をした中で、自分が思い描いていたアメリカでの生活と実際の生活のギャップを知ることができました。特に食生活においては、毎食手作り、というわけではなくマクドナルドやコストコのピザ等が出ることもよくありました。しかし、実際の生活を体験でき新たな知識を得ることができました。そして「どっちでもいい」が通じなかったことにとても驚きました。私は優柔不断な性格で自分で物事を決めることが苦手でした。しかし夕飯どっちがいい？と聞かれてどっちでもいいという意味に似た英語で答えても、通じませんでした。もしかしたらちゃんとどっちでもいいという英語があるのかもしれないけど、私はそれが文化なのではないかと考えました。その文化は、学校で意見、質問をしっかりいえることにつながっているのではないかと思いました。私もホームステイをする中でどちらかはっきりと選ぶようにしました。また、自分の語学力の未熟さを再確認しました。ホストファミリーと生活する中で、指示や会話を聞き取ることにはあまり困難を感じませんでした。しかし、とっさに思いついたことや意見を相手にうまく伝えることはできませんでした。ホストファミリーはとても優しくたどたどしい英語を聞き取ろうとしてくれましたが、会話を楽しむための語学力は身についていませんでした。しかしそのおかげで、語学力を伸ばすためには何をすべきなのか明確になりました。

今回の研修で、たくさんの人と関わり異文化交流の楽しさや、難しさを感じることができました。私に足りなかった点は、語学力と自国の文化についての知識です。語学力に関しては、今回見つけた弱点をしっかりと克服したいです。また、克服する方法としてたくさんの外国人と会話をすることがいいのではないかと考えています。そして、日本についてもっと興味を持つことが大切だと感じました。日本について質問されたときに完璧に答えられたかというとそうではありませんでした。それも、根本的な問題で、その情報をもっていなかったからです。誰かに伝えるために知ることは自分にも相手にも利益が生まれます。そうすることで、日本の文化の継承に役立つと思います。

この研修で私はたくさんの知識を得ることができました。自分自身の課題、日本の課題を自分なりに考えることができた 2 週間でした。その考えを無駄にせず、久米島に反映することができるようにもっと学びを深めていきたいです。今後は、ハワイからくる留学生に久米島や日本の魅力について伝えていきたいと思います。私を派遣してくださって本当にありがとうございました。

写真 1：ホストファミリー

写真 2：:学校のランチ

写真 3：キラウエア火山

写真 4